＊VoL.117 令和４年 11 月末日発行

群 馬 支 部 た よ り

JDS 群馬支部ホームページ　　http://jdsgunman.justhpbs.jp/
☆ 発行責任者　日本ダウン症協会　群馬支部支部長

会員さんから・・・

コロナ禍が続きますが、子ども達はさまざまな場所でがんばっています。
そんな毎日を過ごしている子ども達の様子をお伝えします。

小学６年生のお子さんのお母さんおふたりに「運動会」「修学旅行」の様子をうかがいました。

～ 小学校最後の運動会 ～

よく晴れた汗ばむ運動会でした。娘は地域の小学校の特別支援学級に通っています。６年生は各自、係があります。そのため、クラスの応援席には児童は少なく前列で自席にポツンと座る娘に寂しさを感じました。そんな時、クラスメイトの女の子が隣に座りに来て何やら話しています。その後２人で白組を応援し始めました。娘の隣の席の子が帰ってくるとその子は自分の席に戻りました。

閉会式の整列時、先頭の娘は少しずれた所に立っていました。後ろの子が、もう少し左だよ！と声をかけますが娘は動けず。するとその子は地面に丸を書き、ココ！と教えてくれ、列は真っ直ぐになりました。

学年が上がるに連れて交流学級に行く頻度が減り、周りとの関わりが気になっていた所でしたが友達の接し方を目にして少し安心しました。

また、１年生でやった玉入れを６年生でも行いました。籠も見ず玉を適当に放っていた１年生の時と違い、いまかいまかと開始の合図を待ち、狙っていた玉を拾い、籠を狙って投げる姿を見て娘は玉入れを楽しんでる！と思えました。

中学は、特別支援学校を希望しています。来年度からは違った雰囲気の中でも、娘が運動会をわかってそれを楽しむ姿が見てみたいと思いました。

（ 小学部の母 ）

～ 修学旅行に行って ～

娘は特別支援学級の６年生です。去年の林間学校はコロナ禍で行けず、今年初めての宿泊となりました。学校の先生に事前に一人でお風呂に入れるか、一人で寝られるかの確認がありました。家でも一人でお風呂に入ることもあるのですが、公衆浴場でのマナーが守れるかが不安でした。寝るのは家族で同じ部屋に寝ているのですが、一人でも布団に入れば寝てしまうので問題ないと考えていました。

夏休みに、修学旅行の練習で旅行を計画していましたが、コロナに感染してしまい、夏休みの旅行は行けなくなってしまいました。一度は練習したいと思い、夏休み後に近くのホテルに泊まりに行き練習をしました。大きいバックを持っての移動、公衆浴場でのお風呂の入り方、バイキングの食事もトレーを自分で持って食べられる量をトングで取ること、を練習しました。また、買い物の練習やお金の出し方の練習などもしました。

修学旅行の詳細が分かり、ホテルの部屋のユニットバスに一人で入るとなっていました。今までホテルの部屋のお風呂はほとんど使用したことがなく、使い方を教えたこともありませんでした。子育て教室相談員の先生にユニットバスのことを相談しました。相談員の先生のアドバイスから、学校の先生にユニットバスに入ったことが無いことを伝えました。学校の先生も見てくれるとのことでしたが、心配だったので、シャワーカーテンとシャワーホルダーを家の浴室に着けて、ユニットバスのように入る練習をしました。家では洗い場の方を濡らさないように入ることができていました。

修学旅行は国会議事堂、ディズニーランド、鎌倉へ行きました。ディズニーランドではスプラッシュマウンテンや、ビックサンダーマウンテンにも乗ることができました。ホテルではお風呂や、寝る時もきちんとできていたそうです。なかなか眠れなかったのか、寝るのは一番遅かったそうです。鎌倉では雨の中、班のみんなと歩いて同じ場所を見学できたそうです。

お土産は、買ってくるものを頼んでおいたのですが、ディズニーで妹へのお土産がなかなか見つからず、高いお土産を買ってしまいました。その為、鎌倉で頼んだものが一つしか買えず、残金８円まで使いきっていました。

天気も悪く心配でしたが、班のみんなと楽しく修学旅行に行って来られてよかったです。

家族旅行の際にも、いろいろな経験をさせ教えることが必要だと思いました。

（ 小学部の母 ）

ダウン症のある子どもとのかかわり～専門職として～

群馬支部では支援活動の一環として、子ども達に関わる幼稚園や学校、事業所の職員を対象に、子育て教室の相談員が講師として出向き、ダウン症の障がいの特性を伝えるための『 ダウン症巡回セミナー 』を行なっています。また今年度より、次段階のセミナーとしての『 フォローアップセミナー 』を実施しています。

『 フォローアップセミナー 』を受講された事業所の職員さんからの感想をご紹介します。

～ 本人理解の大切さ ～

ＪＤＳ群馬支部より『 ダウン症巡回セミナーのフォローアップセミナー 』のご案内を頂き受講致しました。春から利用開始した児童に行動停止が見られるようになり、停止してしまうと次の活動への移行が難しいこと、また、マンツーマンの支援を必要とすることから、どのよう伝えたら理解してもらえるのか支援の難しさを感じていました。そんな時に今回のフォローアップセミナーのお話を頂き、さっそく相談員の先生に相談致しました。実際に先生に来て頂いて写真や動画を通して活動の様子を見てもらい、ダウン症の特性、筋肉の弱さが行動停止に影響していること、本人の特性としてよくしゃべるけれども、理解度とは別であること等、教えていただきました。また、具体的な支援方法や行動が停止してしまったときに自分で意識できるような簡単な言葉かけが必要なこともアドバイスを頂きました。その結果、一時的に効果がありましたが、また、壁にぶつかってしまいました。相談員の先生が再度訪問してくださり、実際に使っているスケジュール表を見ながら意見交換を行いました。スケジュール表の使い方として、終わった活動はフィニッシュボックスに入れていく方法でしたが、先生は、スケジュールはそのままにしておくと活動の振り返りができるので、終わった活動にマグネットやシールを張っていく方法が本人は解かりやすいのではないかと提案してくれました。早速その方法でスケジュール表を作りなおしてからは、行動停止することなく、活動を行うことができ、本人はもちろん私たち支援者も喜びを感じているところです。

私たち支援者は、支援の専門性や質の向上を目指し研修会に参加しています。しかし、その中でダウン症に関する研修会に出会う機会がありませんでした。平成 29 年から利用児童を通して JDS 群馬支部と出会い、セミナーを受けさせて頂いています。子どもたち一人ひとり、みんな違う個性を持っています。それぞれの個性を大切にしながら楽しい放課後等デイサービスを提供していくには、子どもたちに関わる人たちと情報共有を行いながら共に歩んで行くことだと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。

（ 放課後等デイサービス職員 ）

※『ダウン症巡回セミナー』は、赤い羽根共同募金会の助成を受けて実施しています

日本ダウン症協会群馬支部ホームページでは【 相談室 Q&A 】を掲載しています。
そちらもぜひご覧ください。 （ http://jdsgunman.justhpbs.jp/new/?p=4121 ）

次回の支部たよりは 2 月下旬に掲載を予定しています。

日本ダウン症協会群馬支部 HP